

## 校 園 名：福岡教育大学附属幼稚園

所在地：〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1番30号 電話番号：0940-35-1262

記載日： 平成28年5月20日 記載者：見上 昌睦 記載者役職：園長

### 貴校の校風、おおまかな特色について：

福岡教育大学に設置された附属幼稚園として、「豊かな心を持ち、自己を十分に発揮し、心身の調和のとれた発達と生きる力の基礎を身に付けた幼児の育成」をめざしています。年少児1学級、年中児1学級、年長児1学級の合計3学級です。

城山（360m）を望む大学のキャンパスに位置し、正門からのなだらかな桜の道を登ると、園庭には大きなクスやイチョウの木があり、四季折々に変化する豊かな環境に恵まれ、幼児が伸び伸びと活動する空間を有しています。平成25年11月には、「園児の育ちを促し、対話が広がる附属幼稚園」をコンセプトに、光と木の温もりをふんだんに取り入れた遊びの空間へと園舎を新築・改修しました。とりわけ、園庭の築山、絵本のへや、アトリエ、新築のプールなど特徴ある施設設備が整っています。そうした、幼児が自然に行き来し交流の輪が広がるような環境の中で、主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開できるような充実した保育を日々行っています。

一方、キャンパスに近いこともあり、大学内の子ども図書室の利用、学生や大学院生による音楽活動、学生による保育技術の披露や子ども図書室の開催、保育指導補助に当たる学生ボランティアの活用など様々な場や人とのかかわり・結びつきが強いことも特色です。

さらに、本園の使命でもある教育実習、教職大学院の学生の体験実習の受け入れを行うとともに、大学と連携して幼児教育に関する共同研究を推進し、幼児教育の振興に協力・貢献しています。

### 貴校の卒業生の活躍状況について：

① 本園の卒園生は、福岡教育大学の附属小学校や私立小学校へ進学する幼児もいますが、附属小学校3校とは距離的に相当離れており、大多数は近隣の公立小学校へ進学します。

卒園生に関しての追跡調査はしておりません。しかし、一例として卒園生の保護者によると、「小学校生活にはスムーズに慣れました。」「何をしたら良いのか、自分で考えて自然に行動することができる子どもに育っています。」との話をお聞きしています。

### 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

① このことについての追跡調査はしておりませんので、在園職員に聴取した範囲の記載です。本園の勤務経験者が、園長になられたり、他大学の附属幼稚園に勤務されたり、他大学等の教員になられたり、教育委員会指導主事になられたりしています。

また、幼児教育の研究会等では指導講師として、本園での経験や実践的な研究を基に、その後も幼児教育の振興に深くかかわり、それぞれの立場でご活躍されていると聞いております。

## 魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

○ 本園では、新しい時代に対応する保育の実現のため、幼稚園教育要領の実践と、幼小のなめらかな接続を視野に入れた教育課程の編成を継続して研究しています。

平成24年度より「言葉で人とつながり合う幼児を育てる」の研究主題のもと、「言葉の力」をもち、言葉で人とつながり合うことに楽しさや心地よさを感じてほしいとの願いをもって研究を進めてきました。

平成27年度は「言葉の育ちを促す媒材を生かし、小学校生活につなぐカリキュラムの作成」をサブテーマに、大学との共同研究の趣旨を踏まえ、幼児期の教育と小学校教育のなめらかな接続に視点を当てたカリキュラムの作成に取り組みました。

言葉で人とかかわることは、とりわけ学校教育の様々な場において強く求められていることです。そこで、小学校以降の生活や学習の基盤となる幼児期の段階で、様々な場を通して人とかかわる楽しさや、言葉を介して気持ちを通わせる心地よさを味わわせることが、話に耳を傾けたり、思いを伝えたりしたいという意欲につながることでできるカリキュラムとするよう配慮しました。「あつまりの場」での振り返り活動「ききましよう・おはなしましよう」における幼児間のやりとり、アトリエ・絵本のへや・園庭などの空間を活用して、言葉に特化したカリキュラムを編成・実施する過程で、幼児一人一人の成長した姿がうかがえるたくさんのエピソードが生まれました。（「平成27年度 研究紀要第22号 言葉で人とつながり合う幼児を育てる」2015年他）

毎年11月には、幼児教育公開研究会を開催し、公開保育の後、全体会（研究提案、大学教員による解説、研究協議、指導講評、講演）を実施し、言葉の育ちを見取る指標や共同の学びにつなぐ提案をすることができました。大学と連携して研究を行い、年度末には研究成果を集録にまとめ、全国の附属幼稚園や近隣に還元することにより、幼児教育の振興に資する情報を提供できたこととらえています。下記に幼児教育公開研究会のアンケートの一部を紹介します。

「小学校と幼稚園で連続することを、つい、小学校へ上がるための準備と思っていたが、『言葉』の面で気持ちを伝え合い、聞くという活動をする中で小学校へつながっていくのだと知りました。」

「聴く練習(座ってきく)をすることで育つのではなく、しっかり聴いてもらう体験、受け止めてもらう体験を豊かにさせていくことを、園でもしっかり行い小学校へ発信していきたいと思いました。」

「どのクラスも継続的なカリキュラムを作成しており参考になりました。特に、年長児の振り返りの様子は興味深かったです。子どもたちの言葉、表現が豊かだと思いました。ごっこ遊びの様子など子どもたちの自主性、お互いの尊重の仕方は大変勉強になりました。」

「年長児が子どもたち同士で考え合う姿が遊びの中で良く見られ、たくさん言葉が交わされていたように思います。『ききましよう・おはなしましよう』は、教師が子どもたちに話し合いの中心を預けていて、殆ど子どもの声。そこに、必要に応じて教師が言葉を加える姿があり、凄いなと思いました。遊びが充実していたからこそ、話したい、聴きたい気持ちが育っているのだと感じ、自分の保育も遊びの充実から考えていきたい。」

○ 本園が宗像市に位置することにより、宗像市子ども・子育て支援事業（幼児教育事業）のうち、教員の職務に応じて保幼小研修会等に参加するとともに、「保幼小学びのめやす」パンフレット作成のワーキング委員として教員を派遣し、具体的な作成にかかわりました。平成27年度には、本園で保育所・幼稚園・小学校の連絡会を開催する機会を得ました。保育所保育士等、幼稚園教諭、教育委員会及び市職員等が参加され、保育公開と意見交流の場を通して、幼児教育と小学校教育との連携・接続を考える場となりました。

幼小の接続を考える時、幼稚園での遊びや活動が直接どの教科領域等につながるというのではなく、幼児の遊びのプロセスや夢中になって遊ぶ姿を通して、育った面や身に付いた資質・能力を積み上げていくことがなめらかな接続につながると考えています。幼児期において小学校以降の教育の根幹となる素地を育てていくよう、見通しながら今後も進めたいと考えています。

その他、子育て支援、未就園児の会などもあり、地域とつながる附属幼稚園を心がけています。

### 「ききましよう・おはなししましよう」の場面（年長組）とその意義



- ① 一日の園生活の中で出会った驚き、発見、ワクワク感を伸び伸びと自由に聞き合う場。自分の思いを安心して表出することのできる場・機会を提供する。
- ② 幼児たちの明日の生活や遊び、活動につながる振り返りを通して、幼児の意識や遊びが途切れず発展していくことに効果がみられる。
- ③ 幼児たちが遊びの方向性にかかわり、物事を自分たちで決めていくことがしばしばある。

### 「園庭の築山で共同的な遊びをする」場面（年長組）



### 「アトリエで、イメージを出し合ってつくる」場面（年長組）



### 「絵本のへやで、保護者による絵本読みをきく」場面

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

- 本園のある宗像市内には公立の幼稚園はないため、地域の幼児教育への協力は重要です。そこで、本園が主催する幼児教育公開研究会、市の幼児教育推進事業への協力などを通して、幼稚園・保育所・保育園の教育研究に資することが重要であるととらえています。
- 県内の研修会の指導講師として職員を派遣したり、幼児教育にかかる委員やワーキンググループの委員になったりしてその力を発揮し、協力・貢献するようにしています。
- 福岡県国公立幼稚園・こども園協会の役員を務め、県の幼稚園・こども園の教育研究や研修に関する推進等の一端を担っています。
- 大学教員と連携して教育理論と実践的研究の両面から研究を行う機関であり、成果報告書にまとめ、地域に還元しています。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

- 九州で唯一の教員養成大学の附属幼稚園であり、幼児教育についての実習を通して、学生の資質の向上をめざしています。様々な専門分野の大学教員と幼稚園とが連携して共同研究を進め、時代に合った幼児期にふさわしい質の高い教育を推進しています。その中において、初等教育教員養成課程幼児教育選修の学生の1年次の体験実習、2年次の基礎実習、3年次の本実習、4年次の教育総合実習や教職大学院の教育実践コラボレーション実習、ボランティア活動の受け入れなどを行っています。  
また、キャンパスに近いことを利用し、授業の1コマとして、専門的な知識技能の習得に加え、幼小接続の観点からも幼児期からの発達の姿を学生自ら体験を通して学ぶことができます。
- 教職大学院の教育実践力開発及び学校運営リーダーコースに、体験実習を受け入れています。本園と近隣の小学校・中学校との異校種での実習により、子どもの発達段階や学びの過程、及び教師の指導のあり方について、具体的に理解する機会となっています。この実習を通して、自らの教育観や子どもの見方、指導のあり方について振り返ったり確認したりすることができます。また、一学校組織として、教育目標の具現化をめざした経営参画や運営の様子、職員間の役割分担や協働作業についても学ぶことができる機会となっています。
- 幼児教育選修の卒業生の多くは幼稚園、または小学校教諭等として活躍しています。副免許として幼稚園教諭免許状を取得する学生は、毎年多数であり、平成27年度は157名（一種119名、二種36名、専修2名）が取得し小学校や特別支援学校教諭として活躍しています。
- 大学教員を学校現場に通じた教員にするため、附属学校を利用した特別研修プログラムを策定し、計画的に実施するよう検討を始めています。



四季折々の豊かな自然環境に恵まれた 福岡教育大学附属幼稚園